

# 協議会だより

DHA・EPA協議会  
〒151-0062  
東京都渋谷区元代々木町 32-7  
一般財団法人日本水産油脂協会内  
TEL & FAX: 03-3469-6931  
URL: <http://www.dhaepa.org/>  
E-mail: [dha\\_epa@par.odn.ne.jp](mailto:dha_epa@par.odn.ne.jp)

副会長 末木 一夫

安倍晋三政権の経済政策・アベノミクスの「3本目の矢」のひとつとして、「新しい成長戦略」が、道半ばという評価に加えて、戦略を示せといった声が国内外からかまびすしい。

1月末のダボス会議においても、首相自らが日本の今後の経済政策につき演説をされた。多様な成長戦略のなかで医療の世界では、アンメット・メディカル(満たされていない医療ニーズ)に対して、革新的医薬品創出の仕組みの構築を推進するための戦略を公表している。そのひとつが日本版 NIH(医療分野の研究開発の司令塔機能)の創設である。その目的としては日本の高いレベルの基礎研究を臨床研究に結び付ける筋道をつけることにある。

一方、免疫の基礎研究でノーベル生理学・医学賞を受賞された利根川進博士が、基礎研究への予算配分を減らさないようにといった意見を述べられている。また、これからは脳科学研究がますます重要になってくることも強調されている。

健康寿命延伸を目指す「第2次健康日本21」プロジェクトの関連する健康政策として、厚生労働省による「認知症施策推進5か年計画」である「オレンジプラン」がある。この健康政策は、早期診断・対応を柱のひとつとすることにある。その具体的な目標は、認知症疾患医療センターを国に190カ所設置するとともに、高齢者6万人に1カ所などを目安に確定診断可能な医療機関500カ所の設置を目指すものである。認知症患者数は、2012年度には305万人、2017年度には373万人と推計されている。この患者数を減らすには脳科学の進歩に基づく予防法、進行遅延策が求められる。アルツハイマー型認知症においては、コリン仮説に基づくアセチルコリンエステラーゼ阻害作用薬による対症療法から、アミロイドβ仮説に基づくアミロイドβオリゴマー産生に関与するβ-セクレターゼおよびγ-セクレターゼ阻害薬の開発あるいはタウ仮説に基づくタウタンパク質凝集による神経原線維変化抑制薬へと移っている。これらの研究が進展するなかで、この脳の異常な劣化状況に関してはかなり人生の早期に始まっているといった考察がなされるようになり、臨床治験の取り組みについてより早期にといった考え方がでてきた。ここで、ようやく我がDHA/EPAが登場するのである。いまだ、ヒト介入試験では脳機能への明確なポジティブ報告が多くはないけれども、ひとつの可能性を秘めているとの期待があるのだが……。(翔)

## 〈第17回通常総会のご案内〉

改めてご案内を差し上げますが、第17回通常総会を以下のとおり開催いたします。開催場所が昨年とは異なりますので、お間違いのないようお願い申し上げます。

日時: 平成26年5月21日(水)14:00～19:00

場所: 南青山会館 〒107-0062 東京都港区南青山5-7-10 TEL: 03-3406-1365

総会・講演会 本館2階 3・4号会議室 14:00～17:00

懇親会 本館1階 2号会議室 17:00～19:00

〈幹事会のうごき〉 平成26年1月17日(金)15:00～17:00、一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成25年度第9回幹事会が開催された。

- ・一般消費者を対象としたDHA、EPAの普及活動について、分科会を開催しその内容が報告された。PR代理店を通して、季節に応じたニューズレターをマスコミに配信することが報告された。
- ・5月に開催される総会講演会の講師を選定した。